



週刊 防衛副大臣 おにき 誠 まこと



12月 15 雨の初登庁

防衛副大臣に再任され初登庁しました。
厳しい内外情勢を象徴するような荒天でしたが、栄誉礼を受け、物故隊員の慰霊碑に献花しました。
1年4ヶ月ぶりの副大臣室は何も変わっておらず、防衛省・自衛隊幹部との懇談では互いに短い挨拶を交わしました。長々話さなくとも今すぐ一緒に働ける間柄です。どんな役割でも果たすので日本の防衛のために私を存分に使って欲しい、と伝えました。



12月 18 連日のミサイル対応

日曜夜に続き、月曜朝も北朝鮮がミサイルを発射しました。どちらも日本のEEZ外に落下しましたが、月曜のものは飛翔距離約1,000km、最高高度約6,000km超のICBM級弾道ミサイル(大陸間弾道弾)でした。ロフテッド軌道で撃たれたこのミサイルは米国全土が射程に含まれることを表しており、日米韓による更なる対応強化が求められています。曜日も昼夜も問わず、私も対応に追われました。

そうした中、アメリカ輸送軍司令官のジャクリン・D・ヴァン・オヴオスト大将が訪日され、防衛省で会談しました。この緊迫した安全保障環境の下、海に囲まれた日本を守り抜くには、輸送・補給面でも日米の連携強化が必要不可欠です。その語り口からは穏やかで聡明なお人柄がにじみ、女性活躍のお手本のように映りました。



アメリカ輸送軍司令官のジャクリン・D・ヴァン・オヴオスト大将と